

哲学する本棚

「こどもとてつがく」ブックリスト

みんな昔は子どもだった

おとなだって、哲学者だって、みんな昔は子どもだった。子どもの頃の話を知ると、相手に親しみがわくかもしれない。

1 星の王子さま オリジナル版

著/サン＝テグジュペリ 岩波書店
訳/内藤濯

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」…。〈おとな〉が忘れてしまったことは、なんだろう？〈子ども〉だったら、わかるかな？

2 「星の王子さま」を哲学する

甲田純生 ミネルヴァ書房

おとなは、だれも、はじめは子どもだった。しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない——。〈子ども〉のための本でありながら、誰にとっても謎めいて見える名作『星の王子さま』。その謎を哲学的に考えると？

3 わたしが子どもだったころ

著/エーリヒ・ケストナー 岩波書店
訳/高橋健二

そのころはまだドイツ皇帝がいた。父さんはじょうぶなカバンを作ったせいで商売に失敗し、母さんは勉強して美容師になった。未来の有名作家は、短いはだ着を着て、クマの毛皮にすわっていた！

4 わたしが子どものころ戦争があった
—児童文学者が語る現代史

編/野上暁 理論社

子どものための本を書いている人が、子どもだったころ、日本は戦争をしていました。「外地」での暮らし、「疎開」の思い出、「戦後」の記憶。どんなときにも、本は子どもの味方でした。

5 銀の匙

作/中勤助 朝日出版社
絵/安野光雅

病弱で臆病な「私」は、愛情豊かな伯母さんに大切に育てられ、繊細な感受性と強い倫理観をもった少年に成長していく。漱石に見出された、著者の自伝的作品。

6 父・木村素衛からの贈りもの

張さつき 未来社

著者の父は、京都で幾多郎に学んだ教育学者だった。北前船の時代の終わりに生まれ、病と貧しさと闘いながら哲学を学び、教育学に転身して、多くの教師に慕われた。その父から、末娘がもらった贈りものとは。

7 和辻哲郎全集第十八巻 自叙伝の試み

和辻哲郎 岩波書店

和辻哲郎は、京大で幾多郎の同僚となった哲学者。播磨の村医者の子に生まれた「テットハン(哲郎さん)」が大きくなるにつれて、農村も昔とは変わってしまった。

8 80年代こども大図鑑—僕たちが大好きだった！
おもちゃ、ゲーム、テレビ、遊び、マンガ全集合

別冊宝島1873 宝島社

昭和の最後の10年間、明るい時代の子どものお気に入りを集めました。ファミコン、キン消し、リカちゃんって知ってる？ おとなだって、「あの頃」は子どもだったんだね？

9 子どもの頃から哲学者—世界—おもしろい、
哲学を使った「絶望からの脱出」！

苫野一徳 大和書房

中学校で「便所飯」をしていた著者は、高校で「学校改革」する生徒会長に、大学で「人類愛教」の教祖になり、躁とうつの両極を大きく揺れ動いた。著者をぶっとばした「哲学」とは？

どうして生まれてきたの？

今や、子どもを生むかどうかを選べる時代。子どもは、生まれてくることを選んだのか？ 生まれてくることは、幸せなのか？

10 子供の哲学—産まれるものとしての身体

檜垣立哉 講談社

実際に子どもを生む・生まないに関係なく、私は誰かの子どもであり、私の身体は子どもを産む身体だ。「いのち」の視点から考えると、すべての子どもは「私の子ども」なのかもしれない。

11 生まれてこないほうが良かったのか？
—生命の哲学へ！

森岡正博 筑摩書房

生まれてこなければ良かった、もう二度と生まれたくない、子どもを生まないほうが良い…。出生から逃れたいという思想は、古代ギリシャにも、仏教思想にも、そして近現代の西洋哲学にも登場する。生まれてよかったといえるのか？

12 生まれてこないほうが良い命なんてない
—「出生前診断」によせて

岩本綾 かもがわ出版

ダウン症の子どもは、生まれてこないほうが良いのか？ 胎児の染色体異常を調べる「出生前診断」。ダウン症をもって生まれた著者は、まっすぐに反対する。

- | | |
|--|--|
| 13 死と誕生—ハイデガー・九鬼周造・アーレント
森一郎 東京大学出版会 | この時代、この国、この身体に生まれるということ、そしてそもそも生まれるということ自体を、私たちは自分で選んだわけではない。誕生は、死と同じく、人が超えることのできない限界だ。 |
| 14 わたしが子どもをもたない理由(わけ)
下重暁子 かんき出版 | 生まれたくて生まれたのではないとしたら、生まれることを子どもに押しつけるなんて、無責任なのでは？「少子化対策」の前に、ちょっと聞いてよ。 |
| 15 生まれてバンザイ
俵万智 童話屋 | 「どうして生まれてきたの？」ってきいても、赤ちゃんは言葉を話さない。けれど、お母さんが歌人だったら、いろんな言葉で赤ちゃんに歌いかけるだろう。「そうだバンザイ 生まれてバンザイ」。 |
| 16 世界お産—生まれやすい国ニッポンへ！
文・写真／きくちさかえ 二見書房 | 赤ちゃんが生まれてきたのは、お母さんが産んだから。病院で、ヤシの葉のうぶ小屋で、洪水の木の上で、震災の避難所で、産む。自然に産むって、なんだろう？ |
| 17 ぼくが生まれてきたわけ
著／池川明 KADOKAWA
絵／こうのみほこ | ぼくが生まれてきたのは、空の上でお母さんを選んだから！「胎内記憶」や「前世の記憶」は、にわかには信じがたいけれど、そうしてみると人生がラクになることもあるかもしれない。 |
| 18 うちにあかちゃんがうまれるの
文／いとう えみこ ポプラ社
写真／伊藤泰寛 | うちに あかちゃんが うまれるの。たなばたさまに おねがい したからかなあ？「まってるからね」。あかちゃんは しんぞうの おとで おへんじ。 |

もっと遊びたい！

子どもは遊ぶのが好き。時に、おとなをクタクタにさせるほど…。どうして遊ぶの？ 遊びって何？ おとなは遊べないの？

- | | |
|--|--|
| 19 プレイ・マターズ—遊び心の哲学
著／ミゲル・シカール フィルムアート社
訳／松永伸司 | 遊びの哲学、最前線！ スマホをわざと不便にするアプリ、機動隊に包囲されたときの遊び、プレイに8時間もかかるゲーム…。遊び心ってなんだろ？ 遊びを引き出すデザインとは？ |
| 20 ホモ・ルーデンス
著／ホイジンガ 中央公論新社
訳／高橋英夫 | 遊び論といえばこの一冊。祭り、裁判、戦争、謎解き、詩作、哲学、芸術…。あらゆる文化は遊びのなかに始まった。けれども、「真に遊ぶためには人はふたたび子供にかえらねばならない」。 |
| 21 『不思議の国のアリス』の分析哲学
八木沢敬 講談社 | 遊びの天才・アリスを生み出した作家、ルイス・キャロルは、オックスフォード大学の論理学教師だった。だから哲学者は、アリスの奇妙な冒険を論理的に分析したくなるらしい。哲学者はアリスと一緒に遊べるのか？ |
| 22 にほんのあそびの教科書—こどもたちへ伝えたい…
編／にほんのあそび研究委員会 滋慶出版／土屋書店 | 「はじめの一步」の次は、なんて数える？「かくれんぼ」は平安時代からあった？「あっちむいてほい」は大人の遊びだった？ 子どものあそびをよく考えると、おとなにとってもおもしろい。 |
| 23 遊びの現象学
西村清和 勁草書房 | 怖いのにどうしてジェットコースターに乗るの？ 鬼ごっこの「鬼」って何？ おもちゃがあると遊びたくなるのはなぜ？ 一つ一つの遊びをじっくり見きわめる一冊。 |
| 24 幼児理解の現象学—メディアが開く子どもの生命世界
矢野智司 萌文書林 | ニンゲンだけどザリガニのような(!)幼児を、おとなが理解することはできるのか。最近、幼児が遊びにくくなっているとしたら、どうしてか。ヒントは西田哲学の「歴史的な身体」だ。 |
| 25 子どもと森へ出かけてみれば
写真・ことば／小西貴士 フレーベル館 | 八ヶ岳のふもと、清里高原の「森のようちえん」。森のなかには、いのちと笑顔と、たいせつな涙があふれている。遊ぶって、こんなに真剣だ。 |
| 26 いやだあさまであそぶんだい
作／ヘレン・クーパー アスラン書房
訳／ふじたしげる | 「おやすみ」だなんて、いやだーい！ ぼうやは あさまで あそびたい。だれか あそんでくれるかな？ |



哲学する子ども

「なんで?」「どうして?」という子どものギモンは、哲学の問いに似ている。子どもと哲学者は、友達になれるかも?

- 27 **子ども哲学ハンドブック**
—自由に考え、自由に話す場のつくり方
NPO法人子ども哲学・おとな哲学 アルパカ合同会社
アーダコーダ
- 28 **子どものてつがく—ケアと幸せのための対話**
監／鷺田清一 大阪大学出版会
著／高橋綾・本間直樹
(ほんまなほ)
- 29 **子どもの哲学—考えることをはじめた君へ**
河野哲也、土屋陽介、 毎日新聞出版
村瀬智之、神戸和佳子
- 30 **考えるっておもしろい! 子ども哲学図鑑**
監／河野哲也 あかね書房
編著／NPO法人子ども哲学・
おとな哲学アーダコーダ
- 31 **子どものための哲学対話**
—人間は遊ぶために生きている!
著／永井均 講談社
絵／内田かずひろ
- 32 **子どもと哲学を—問いから希望へ**
森田伸子 勁草書房
- 33 **哲学する子どもたち**
—バカロレアの国フランスの教育事情
中島さおり 河出書房新社
- 34 **一年一組せんせいあのね**
選／鹿島和夫 理論社
絵／ヨシタケ シンスケ
- 子どもの哲学は、かほく市の小学校でも取り入れられている。それは、すぐには答えが出ないような問いについて、子どもたちとじっくり対話すること。そんな哲学する場をつくるためのアドバイスが詰まった本。
- アメリカのリップマンが始めた「子どものための哲学」は、地域によって形を変えながら、ハワイ、メキシコ、日本などに広まった。小中高校、美術館、少年院、そして被災地で、子どもたちが交わした対話とは。
- ふだん、哲学対話に取り組んでいる哲学者たちが、小学生から届いたテーマで哲学対話してみた。四人の間で意見が違ったり、別の角度から考えていたりして、ますます分からなくなることも。哲学対話の気分を味わえる本。
- 子どもだけでなく、哲学者やロボットと一緒に勉強する学園があったら?世界の哲学者の考えをちょっとだけ聞いてみたり、哲学者にお悩み相談したりすると、いつもと違った考えがひらめくかもしれない。
- 五年生の「ぼく」の家にすみついた猫・ペネトレは、ずいぶん変わった考えを持っている。元気が出ないときにはアドバイスもくれるけれど、「友だちはいない!」とか、「地球は丸くない!」とか、びっくりするようなことも言う。どうしてそんなことを言うんだろう?
- 幼い子どもの素朴なギモン、不登校の子どもが抱える悩み、自ら命を絶った子どもが残していった問い。そうした問いは、哲学者の言葉と驚くほど響き合う。子どもの問いに、おとなはどう答えるのか。哲学はどう答えるのか。
- フランスの高校には「哲学」という教科がある。日本と違うのはそれだけではなく、中学から第二外国語を勉強したり、卒業試験は論述ばかりだったり、教師がストライキを起こしたり…。哲学の試験勉強って、どうするんだろう?
- 「にんげんは なんのために 生きていますか」。「かみさまは どうやって うまれたんですか」。「くちごたえて なんですか」。いちねんせいのしつもんは ふかい。

子どもたちへ／おとなたちへ

おとなは、子どもに何かを教えたがる。子どもを応援していると、おとなも元気をもらうからかもしれない。

- 35 **漫画 君たちはどう生きるか**
原作／吉野源三郎 マガジンハウス
漫画／羽賀翔一
- 36 **はじめての哲学**
藤田正勝 岩波書店
- 37 **子どもたちに語るポストモダン**
著／J.F.リオタール 筑摩書房
訳／管啓次郎
- 38 **センス・オブ・ワンダー**
著／レイチェル・カーソン 新潮社
訳／上遠恵子
- 39 **十歳のきみへ—九十五歳のわたしから**
日野原重明 富山房インターナショナル
- 自分で考えるって、どういうことだろう。正しく生きたいのに、友達を裏切ってしまった…。中学生の僕に、浪人中のおじさんが教えてくれた考え方は。映画で話題の物語を、漫画で。
- 日本哲学史の藤田先生が、中高生のために書いた哲学の入門書。何のために生きるのか、よく生きるとは何か。一步一步を踏みしめながら、哲学の問いに分け入ろう。
- リオタールは、ポストモダン思想で知られる現代の哲学者。子どもたち=戦後生まれの哲学者に向けて、たくさんの手紙を書いた。「哲学」は学べない、学べるのはただ「哲学する」ことだけだという。
- 世界中の子どもたちに、終生消えることのないセンス・オブ・ワンダー(自然の神秘に目を見張る感性)を…。余命わずかな著者が、姪の遺児に贈ることを願って書き続けた本。
- きみがいま十歳あたりだとすれば、九十四歳を過ぎたわたしの年齢はきみのおよそ九倍と四年半です——。元気で長生きなお医者さんが、十歳の子どもに向けて、いのちや、家族、平和について語る。

- 40 百年後を生きる子どもたちへ
—「帰れないふるさと」の記憶 それでも「ふるさと」
写真・文／豊田直巳 農山漁村文化協会
- 41 「毒親」の子どもたちへ
斎藤学 メタモル出版
- 42 考える絵本6 子ども・大人
文／野上暁、ひこ・田中 大月書店
絵／ヨシタケシンスケ
- 43 子どもたちの遺言
詩／谷川俊太郎 佼成出版社
写真／田淵章三
- 44 こどもってね……
文・絵／ベアトリーチェ・ アレマーニャ きじとら出版
訳／みやがわ えりこ

幾多郎と子ども

幾多郎だって、昔は子どもだった。おとなになって、子どもや孫をかわいがった。子どもから見た幾多郎は、どんな人？

- 45 小学館版学習まんが 西田幾多郎
—世界に影響を与えた日本人初の哲学者
監／石川県西田幾多郎記念哲学館 小学館
まんが／みやぞえ郁雄
シナリオ／平良隆久
- 46 みんな仲よし 幾多郎きょうだい
—日本を代表する哲学者・西田幾多郎
編／ふるさと偉人絵本館編集委員会 北國新聞社
文／かつおきんや
絵／かみでしんや
- 47 寸心読本 西田幾多郎先生 改訂版
編／西田幾多郎博士顕徳会 石川県かほく市教育委員会
「寸心読本」編集委員会
- 48 西田幾多郎歌集
編／上田薫 岩波書店
- 49 西田幾多郎—同時代の記録
編／下村寅太郎 岩波書店
- 50 祖父 西田幾多郎
上田久 南窓社
- 51 企画展図録 幾多郎と作太郎
—同じ悲しみを抱きながら
編／石川県西田幾多郎記念哲学館 石川県西田幾多郎記念哲学館
- 52 国文学史講話
藤岡作太郎 岩波書店